

8 「お札」からみる日本仏教

【全4回】／開催方法：オンライン

かとう
加藤みち子

武蔵野大学
仏教文化研究所特任教授
中村元東方研究所
主任研究員



受講料	会員料金：¥9,000	早割価格：¥8,000(納入期限：8月18日)
-----	-------------	-------------------------

【日程・時間】【全4回】

8月21日(金) 10:15~11:45 / 12:30~14:00

8月22日(土) 10:15~11:45 / 12:30~14:00

■受講に必要なもの

[テキスト] レジューメ配布

「お札」というのは、日本仏教の中に根付いており日本人の生活文化の中に息づいているものです。しかし、仏教ではどのように位置づけられているのか、ということはあまり知られていないように思われます。そこで本講座では、日本仏教各宗派で用いられる具体的なお札を見ていながら、歴史的背景や思想的根拠も踏まえて、日本仏教との関わりを紐解いていきたいと思えます。

1 時限目 「お札」とは何か？—その役割と歴史

「お札」とはそもそも何なのか。その役割や、成立事情について、概要を解説します。

2 時限目 神社の「お札」とお寺の「お札」

同じお札でも、神社の「お札」とお寺の「お札」は何が違うのか。はたまた、修験道のお札とは何が違うのか。具体的なお札を見ながら、その意味を考察します。

3 時限目 「お札」と勧進聖（かんじんひじり）

「お札」はどのように、広まったのか。その媒介者である「勧進聖」について紹介しながら、お札の流布とその意味を考えていきます。

4 時限目 江戸時代から現代へ：お札の流布と庶民信仰の諸相

庶民信仰が全国的に日本社会に定着した江戸時代から、お札がどのように流布し、また変容・発展していくのか、現代につながる「お札」の展開を見ていきます。

【参考書籍】

- ・千々和到著『日本の護符文化』弘文堂、2010年
- ・ベルナール・フランク著『「お札」に見る日本仏教』藤原書店、2006年